

# これまでに導入してきたアヤメ科植物の耐寒性

濱谷 修一

アヤメ科の植物には、園芸的に有用と期待される種が多く含まれるため、これまで、他園との種子交換などを通じて、いくつかのアヤメ科植物を導入してきた。ところで、本科の植物は、特に魅力的な種の多くが半耐寒性植物といわれている。半耐寒性植物は、霜に当たると傷むため、通常鉢植えにして、室内や軒下で管理する必要がある。一方、新たに導入した植物を一般家庭へ広く普及させようとする場合には、屋外で容易に栽培できるような、できるだけ耐寒性の強い種を選んで紹介することが望まれる。そこで、1995年（平成7年）の冬から1996年（平成8年）の春にかけて、耐寒性の調査を行った。

## 調査の方法

鉢植えで栽培しているアヤメ科植物、20属44種について調査を行った（表）。

栽培場所は、露地と無加温霜除け下の2か所

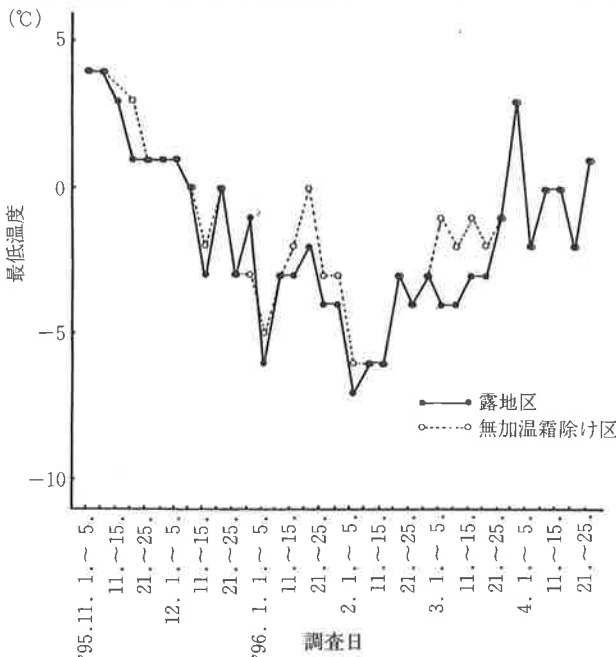


図 調査区における、5日毎の最低温度の推移

の片方あるいは両方とし、いずれも広島市植物公園栽培温室周辺に設置した。無加温霜除けについては、11月5日から3月25日の間、栽培場の棚上約2mの高さにビニールをかけることとした。それぞれの箇所において、1995年11月から1996年4月にかけて5日毎に最低温度を記録した。

1996年4月中旬にすべての植物について生育状況を調査した。

なお、今回の調査に用いた植物は全て、最低温度が1°Cより低くならないビニールハウス内で越冬した実績を持つものである。

## 結果

### ・温度の記録

調査を行った期間の、5日毎の最低温度の推移を図に示した。

調査を行った2か所において最低温度は同じ、あるいは露地区で1~3°C低く推移した。両区ともに、2月上旬に最も低い温度（露地が-7°C、無加温霜除けが-6°C）を記録した。

### ・生育の記録

露地、無加温霜除けの条件下における、4月中旬時点での植物の状態を表に示した。外見で目立った傷害のないものは、冬の間にはほとんど大きくならなかったものも含めて「生存」と記した。傷害が認められたものについては、具体的にその程度を記した。なお、空白になっている部分は、保有している鉢数の都合で調査できなかったことを示している。また、表の中に原産地を記入しているが、数種類の文献から調べているため、表現に不統一がある（例、「南アフリカ」と「アフリカ南部」の違い）。

## 考察

露地と無加温霜除けの両方の条件下で栽培した種の中で、無加温霜除けの条件下で葉に傷害が認められた種は、露地で栽培すると枯死する傾向が見られた。したがって、露地で栽培を行わなかった種についても、無加温霜除けの条件下で葉に傷害が認められたものは、露地では枯

死する可能性が高いと考えられる。これらを含め、露地あるいは無加温霜除けの条件下で枯死した種については、屋外での栽培は断念すべきであろう。

一方、露地で「生存」していた種は、耐寒性の強い植物として、今後どんどん紹介していくべきである。

また、無加温霜除けの条件下で「生存」していた種の中で、露地で栽培した場合に葉に傷害が認められたものと、露地で未調査のものにつ

いては、屋外の地植えでも安全に栽培できる方法（簡単な防寒を施したり、植え付け時期を遅らせたりするなど）を確立した上で、紹介することが望ましい。

〈参考文献〉

園芸植物大事典. 小学館.

Index Kewensis.

Bailey, L.H., 1976. Hortus Third. Cornell University.

表 耐寒性に関する調査を行った植物の、露地及び無加温霜除け下での生育結果

調 査 し た 植 物		生 育 結 果	
植 物 名	原 産 地	露 地	無加温霜除け
<i>Aristea africana</i> Hoffmgg.	熱帯アフリカ	生存	葉先の傷み
<i>Aristea compressa</i> Buching ex baker	南アフリカ (ナタール)	枯死	葉先の傷み
<i>Aristea cyanea</i> Ait.	アフリカ南部	葉の傷み大	生存
<i>Aristea ecklonii</i> Bak.	熱帯～南アフリカ	枯死	葉先の傷み
<i>Aristea ensifolia</i> Muir	アフリカ南部 (ケープ)	枯死	葉先の傷み
<i>Aristea macrocarpa</i> G.J.Lewis	南アフリカ (ケープ)	枯死	生存
<i>Babiana ambigua</i> (Roem.&Schult.) G.J.Lewis	南アフリカ (ケープ)		生存
<i>Babiana pygmaea</i> (Burm.f.) Bak.	南アフリカ (ケープ)		葉の傷み大
<i>Babiana rubrochrysea</i> (Jacq.) Ker-Gawl.	南アフリカ (ケープ)		生存
<i>Babiana stricta</i> (Ait.) Ker-Gawl.	南アフリカ (ケープ)		生存
<i>Babiana tubiflora</i> Ker-Gawl.	アフリカ南部		生存
<i>Chasmanthe aetiopica</i> (L.) N.E.Br.	熱帯～南アフリカ	枯死	枯死
<i>Chasmanthe bicolor</i> (Gasp.) N.E.Brown	南アフリカ	枯死	葉先の傷み
<i>Crocsmia paniculata</i> (Klatt) Goldblatt	南アフリカ		生存
<i>Cypella plumbea</i> Lindl.= <i>Phalocallis coelestis</i>	ブラジル～アルゼンチン		生存
<i>Dierama cooperi</i> N.E.Brown	アフリカ南部 (オレンジ自由州)		生存
<i>Dierama pulcherrimum</i> (Hook.f.) Bak.	南アフリカ		生存
<i>Dietes robinsoniana</i> (F.J.Muell.) Klatt	オーストラリア (ロードホウ島)		葉先の傷み
<i>Dietes vegeta</i> (L.) N.E.Br.	南アフリカ		枯死
<i>Ferraria crispa</i> Brum.	南アフリカ	枯死	枯死
<i>Ferraria undulata</i> Linn.	アフリカ南部		葉先の傷み
<i>Freesia alba</i> M.Foster	南アフリカ		葉先の傷み
<i>Freesia refracta</i> (Jacq.) Klatt.	南アフリカ		葉先の傷み
<i>Freesia sparrmannii</i> N.E.Brown	南アフリカ		生存
<i>Galaxia citrina</i> G.J.Lewis	アフリカ南部 (ケープ)		枯死
<i>Geissorhiza rochensis</i> Ker-Gawl.= <i>G. monantha</i>	アフリカ南部		枯死
<i>Gladiolus carneus</i> D.Delar.	南アフリカ	生存	生存
<i>Gladiolus elliotii</i> Bak.	南アフリカ (トランスバール)		枯死

調 査 し た 植 物		生 育 結 果	
植 物 名	原 産 地	露 地	無加温霜除け
<i>Gladiolus ochroleucus</i> Bak.	アフリカ南部	生存	生存
<i>Gladiolus tristis</i> L.	南アフリカ	生存	生存
<i>Hesperantha falcata</i> Ker-Gawl.	アフリカ南部		枯死
<i>Homeria breyniana</i> (L.) G.J.Lewis=H.collina	南アフリカ		生存
<i>Iris cristata</i> Ait.	アメリカ合衆国南東部	生存	
<i>Ixia maculata</i> L.	南アフリカ (ケープ)		枯死
<i>Ixia monadelpha</i> D.Delar.	南アフリカ (ケープ)		生存
<i>Ixia polystachya</i> L.	南アフリカ (ケープ)	枯死	枯死
<i>Ixia scariosa</i> Thumb.= <i>I. rapunculoides</i>	アフリカ南部	葉の傷み大	
<i>Ixia viridiflora</i> Lam.	アフリカ南部		枯死
<i>Lapeirousia laxa</i> (Thumb.) N.E.Br.= <i>L. cruenta</i>	南アフリカ		生存
<i>Libertia formosa</i> R.C.Grah.	チリ	生存	生存
<i>Libertia grandiflora</i> (R.Br.) Sweet.	ニュージーランド	生存	
<i>Libertia ixioides</i> (J.R.Forest) K.Spreng.	ニュージーランド	葉先の傷み	生存
<i>Ornithosanthus polystachyus</i> Benth.	オーストラリア	生存	
<i>Sisyrinchium filiforme</i> Rafin.	合衆国、メキシコの国境地帯		生存

## 平成 8 年の園内植物開花記録

富 澤 ま り

平成 8 年 1 月から 12 月まで、園内に植栽された植物及び自生植物について開花調査を行ったので、結果を報告する。

### 方法

対象は、園内の芝生広場、園路、樹林観察園、ロックガーデンや系統進化園の植物及びウメ、ツバキ、サクラ、ボタン、アヤメ類、アジサイである。

初めて開花を記録した日を開花始めとし、最後に記録した日を開花終わりとした。また、8 分咲き程度を見頃とした。その他は平成 7 年度の調査に準じた。

### 結果

平成 8 年の開花記録を表 1～7 に示した。開花始めは◇、終わりは▷、見頃は○で表した。

ウメ (表 1) の開花始めは前年に比べ、全体

に 4 日から 1 週間の遅れで、約 2 週間の遅れがみられるものもあった。特にトウジ、アオジク、コキンシュウなど例年 2 月上旬に開花するものが 2 月中下旬にずれこんでいた。原因として、12 月～2 月にかけて月最低気温が前年を下回っていたこと (園内気象記録より) や、開花直前の低温などが影響していると思われる。開花期間は、多少ばらつきがあるものの平均すると前年と変わらず、開花始めが遅れた分、開花終わりも遅れる傾向にあった。

ツバキ (表 2) は、前年より開花が 2 週間ほど遅れ、ヤブツバキでは花の数が少ないように見受けられた。

サクラ (表 3) も前年と比べ 3 日から 1 週間、開花始めが遅れた。当園と広島地方気象台 (広島市中区) のソメイヨシノの開花日を比較すると、平成 7 年、8 年とも当園の方が 3 日遅くなっている。気象庁では、従来の蕾の重さで開花日を予想する方法から、開花と気温の関係を利用した方法に変更し、精度を高めている。気象台の予測を参考に、当園のサクラの開花予想をす